

第2学期の終了にあたって

越谷北高等学校長 下山 忍

第2学期の終業式にあたり、私から2つのお話をしたいと思います。

1点目は、生徒の皆さんの頑張りについてです。私が感動したという思いを伝えたいと思います。9月の竜巻被害に始まった2学期でしたが、本校では、文化祭・体育祭・修学旅行・強歩大会・球技大会・ダンス発表会等と様々な学校行事がありました。学習活動と両立しながら、その全てに真面目に、一生懸命に取り組み、大いに盛り上がる皆さんの姿を見ることができました。きっと素晴らしい思い出になったことと思いますし、それらの学校行事を成し遂げる中で、多くの力を身に付けてくれたと信じています。



また、部活動の大活躍も見事でした。新聞部・書道部・パワーリフティング部・吹奏楽部は、「越谷北ここにあり」と全国にその名をとどろかせてくれました。それ以外の多くの部活動も、関東大会や県大会で活躍してくれています。部活動における日々の鍛錬と仲間とのチームワークは何ものにも代え難い財産であり、きっと生涯にわたって皆さんを支え続けることになるでしょう。

部活動以外でも、本校の校門から外の世界に羽ばたく多くの生徒たちがいました。本日も報告がありました県立高校海外派遣プログラムによるハーバード大学やマサチューセッツ工科大学訪問。未来を想像するリーダー育成推進プロジェクトによる東日本被災地訪問、先端技術機関訪問、医学部セミナー、早稲田大学で行われた白熱教室。「目指せ、世界に羽ばたくグローバル人材」という討論会のパネリスト。理数科ネットワーク推進事業によるプレゼンテーション、科学の甲子園埼玉県大会など、様々な活動に積極的に参加し、貴重な体験をしたと思います。今後の人生でぜひ活かしてもらいたいと願っています。

それから、もう1つ付け加えたいのは、「善行」についてです。先週の防災訓練の時に、越谷消防署の方からお褒めの言葉をいただきましたが、男女7名の本校生徒が道路で倒れた高齢者の方の救護活動にあたったということでした。昨年度も交通事故にあった高齢者の方を救護した男子生徒がいたとも聞いています。また、先日、近隣の桜井小

学校の校長先生から、倒れた小学生を介抱した本校生徒への御礼がありました。校長先生のお話によると、2名の女子が自転車で通りかかったのですが、小学生が倒れているのを見ると、すぐに自転車を止めて助け起こしてくれたということでした。「勉強ができるだけでなく、人として素晴らしい生徒さんたちですね。」とお褒めの言葉を頂きました。私は大変嬉しく思いました。そのほかにも、9月の竜巻被害の時には、多くの生徒がボランティアに名乗り出てくれました。このように人として素晴らしい行いのできる本校生徒を私は誇りに思っています。また、校内においては、剣道部の皆さんが、毎朝掃除してくれていることにも感謝しています。

2点目は、授業についてです。2学期中に、私は、各教室に伺い、授業の様子を見せていただきました。ほとんどのクラスを伺うことができました。各教室では、チャイムからチャイムまでの50分間、予習を前提とした高いレベルの授業が行われていました。先生方の熱意あふれる指導や、生徒の皆さんが、真面目に、真剣に、授業に取り組む様子を見るのが出来ました。

授業は、先生方だけが創るのではなく、先生と生徒が創り上げるものだと思っています。先生が教材研究をして、懸命に分からせようとする。生徒はこれを受けて、懸命に分かろうとする。師弟の心が一致することをいう「啐啄同時」という言葉もありますが、こうした関係があれば、素晴らしい授業を創ります。すなわち、素晴らしい授業を創るためには、生徒の皆さんの「主体的な学び」が必要だと思うのです。漠然と授業を聞いているだけでは、主体的な学びとは言えません。50分の授業から、何を学び取るのか、あるいは学び取らなければならないのか、そういう姿勢で授業を受けたとき、必ず目は先生の方を見えています。そして手はメモを取るために動くと思うのです。耳だけでなく、五感を働かせて授業に臨んでください。そうすると、教室には、一種の緊張感が張り詰めるはずですよ。私はそれが、素晴らしい授業だと思います。そして、素晴らしい授業は、必ずや学力を向上させるとしています。

もう1つ言えば、その授業を活かすために必要なのが「予習」です。学習範囲を予め押さえていくことで、より真剣に授業を受けることができ、より深い理解に入ることができます。そして、それを定着させるのが「復習」です。よく「予習」「授業」「復習」の黄金サイクルと言いますが、そういう意味です。

勉強・部活動・学校行事等、全てに一生懸命な生徒の皆さんに時間がないことは十分承知の上で申し上げます。でも、やり方はそれぞれの状況に応じてよいと思いますが、何らかの工夫をして、予習・復習を自分の学習計画の中に組み入れてください。

12月21日に、未来を創造するリーダー育成推進プロジェクトの一環で、東部地区3校（春日部高校・不動岡高校・本校）から東大や東工大、あるいは国立大学医学部といった難関大学に合格した先輩によるパネルディスカッションがありました。3校の1・2年生の希望者を対象にお話をしてくださいました。私も伺っていて大変参考になりました。

6人の先輩が話してくれたのですが、共通する内容がいくつかありました。部活動や学校行事という高校生活を大切にしていたこと、全員が部活動にも熱心に取り組んでいたこと、そのために朝型に切り替えたこと、授業を中心に授業を活かして学力向上に努めたこと、時間のない中で隙間時間を活かしたこと、目指す大学の過去問に早めに着手したことなどでした。生徒の皆さんには、ぜひ自分自身の学力向上という大きな目標のもとに、毎日の授業を活かして頂きたいと願っています。

最後に3年生に申し上げます。いよいよ入試本番です。不安も多いかと思いますが、今までやってきたことを信じて頑張ってください。適度な緊張は実力を発揮する上で悪いことではありませんが、余り焦りすぎることは禁物です。時には開き直すことも必要です。今までやってきたことを信じ、先生を信じ、仲間を信じて入試本番に臨んでください。1月18日のセンター試験の朝には、私も応援・激励にいくつもりです。3年生全員の健闘を祈ります。(平成25年12月24日 第2学期終業式校長講話より)